

銅の新規需要に期待! ICA会長記者会見



ICA（国際銅協会）のジョン・ホランド会長は去る7月25日にホテルオークラ東京（東京・虎ノ門）で記者会見を行い、医療機関や養殖市場で銅製品の使用が広がれば、年間10万トン近い銅の新規需要が見込めるとの試算を示した。銅は再生可能エネルギーなどでも重要な素材であり、銅が果たせる社会的な役割を、国際組織としてより強力に発信していかなければならないと語った。

◆医療機関

世界では年間2500万人もの患者が院内感染にかかるが、医療分野でドアノブなどの接触部分に銅製品を導入すれば感染率を40%~70%減らすことができる。ヘルスケア市場での新規銅需要は4万~5万トンを見込める予定。

◆養殖市場

水産養殖の魚網に銅を使えば病気のまん延を防ぐだけでなく、貝類や藻の付着も防げるため清掃頻度を減らすことができる。世界的な人口増加により養殖需要は高まるとみられ、全ての養殖市場で銅製品に切り替えられた場合、5万トン程度の銅需要が期待できる。

トピックス

TOPICS 1

銅の生物が動き出す？
「coppers 早川」展示会

親子ユニットcoppers早川による展示会が去る2月29日~3月6日、丸善・丸の内本店（東京千代田区）、8月22~28日銀座松屋（東京中央区）でそれぞれ行われた。この親子が作り出す作品は金属でありながら、どこか暖かく懐かしさを感じさせ、見た人を銅の作り出す不思議な空間にいざなってくれる。



TOPICS 2

世界のすべては、元素でできている。
「元素のふしぎ」展

去る7月21日から10月8日まで国立科学博物館（東京・上野）で特別展「元素のふしぎ」が開催されており、118種類の元素すべてを分かりやすく、楽しく紹介している。日本銅センターでは、各コーナーに様々な銅製品を提供し展示を盛り上げている。難しい、なじみがないと思われがちな元素の音を鳴らしてみる、持ち上げてみる、作ってみるなど様々な体験を通し私たちの身のまわりのすべてものに元素は存在していることを実感することができる。子供だけでなく大人も楽しめる科学の遊園地のようなイベントだ。



金属の重さ比べ

編集後記

今年の夏は、暑くて眠い夏でした。2008年の北京オリンピックと比べ、ロンドンオリンピックの時差は結構きつかったですね。メダルの数も話題になりました。目標とした金メダルの数には届きませんでしたが、世界のトップクラスになると、持っている力と結果は時の運と言うのが正直な感想ですね。さて本号ですが、特集は東京駅の丸の内駅舎の復原工事です。工事の最終段階に入った駅舎を取材

しています。特集記事と表紙にも写真を掲載しましたが、丸の内側から東京駅を見ると八重洲側のモダンなビルを背景として、クラシックな駅舎が引き立ちます。是非一度足を運んでください。ちなみに記事に使った全景写真は丸ビル5Fのバルコニーから撮っています。

編集デスク 竹中 俊一（日本銅センター）

情報発信委員会

（委員長）堀田修司（(株)神戸製鋼所）
（委員）鉦山／塚本弘之（三菱マテリアル（株））、鏡原俊一（バンバンフィック・カッパー（株））、永田禎彦（日本鉱業協会）伸銅／轟正博（古河電気工業（株））谷敬三（(一社)日本伸銅協会）電線／野田哲也（(株)フジクラ）、大木啓一（(一社)日本電線工業会）（(社)日本銅センター）和田正彦、幸洋二